

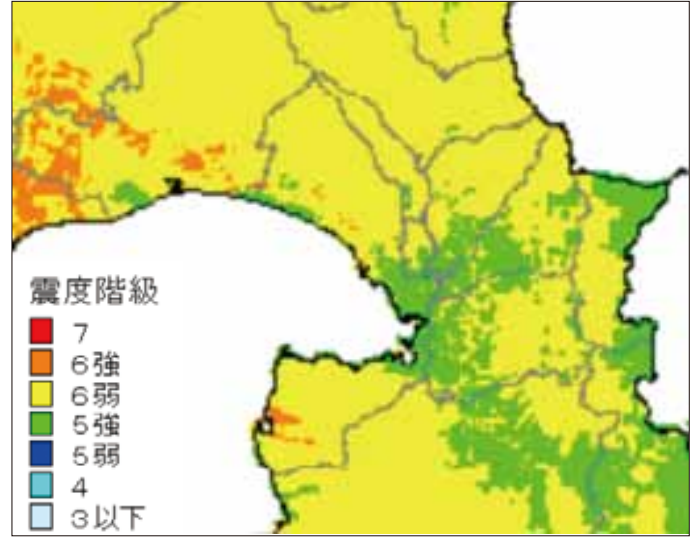
想定

レベル2
沼津市の想定

レベル2の被害想定は最悪の事態を仮定

レベル2の対象とする地震・津波は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの南海トラフ巨大地震を想定したものです。地震動や津波については、本県の被害が大きくなるケースにより推計したもので、本市の最大震度はレベル1と同様6強、ほとんどの地域は6弱、最大津波高は10mでした。

レベル2 震度分布 ※基本ケース



●レベル2 沼津市の想定内容 ケースごと想定は異なりますが、建物・人的被害は最大の場合

区分	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震 (南海トラフ巨大地震)			
	地震動 (震度区分・面積)	震度6強 震度6弱	6.0 k㎡ 158.4 k㎡	震度5強 震度5弱
津波高	最大津波高 10m 平均津波高 7m (地点未公表)			
津波最短到達時間	最短津波到達時間 +50c m 約3分		最大津波 約19分 (地点未公表)	
浸水面積	浸水深 1c m以上 : 7.4 k㎡ 1m以上 : 5.5 k㎡ 2m以上 : 3.2 k㎡ 5m以上 : 0.7 k㎡			
建物被害	全壊・焼失棟数 約6,000棟 (冬・夕、地震予知なし)			
人的被害	死者数 約13,000人 (冬・深夜、早期避難率低、地震予知なし) (夏・昼、予知有の場合は約800人)			

※津波到達時間は海岸への到達時間

市内の
浸水域

津波浸水域はレベル1・2とも
「津波避難訓練対象区域」内

地区ごとの状況

今回の想定における津波の浸水範囲は、第一、第三、第四、静浦、内浦、西浦、戸田地区で、その他の地区には津波の浸水が想定されませんでした。

また、レベル2において、国が公表(H24・8)した南海トラフ巨大地震の想定浸水域より浸水域が拡大している地区が一部ありましたが、平成23年度に市が指定した「津波避難訓練対象区域」内でした。

津波避難訓練対象区域とは

本市が、これまで「最も大きな被害を受けた安政東海地震の浸水域を含む単位自治会までの区域を対象とし、津波避難訓練や津波対策の強化に取り組んでいます。」

第一、第三、第四地区

レベル1では、第三地区の一部に浸水しますが、海岸堤防等によりほとんどの地区で浸水は想定されていません。また、レベル2では、国が公表(H24・8)した南海トラフ巨大地震の想定浸水域より拡大している地区が一部あります。(拡大した範囲は次頁以降に地図を掲載)

静浦、内浦、西浦、戸田地区

レベル2において、国の想定とほぼ同様の浸水域となりました。引き続き、裏山への津波避難路など緊急避難施設の整備を進めていきます。

津波の浸水想定区域外

海岸から離れている第一地区から北側及び大平地区は浸水しないという結果になりました。また、海岸に近い市の西部地区においても以下の理由から同じ結果となりました。

- 1 市西部地区の地理的特性
富士海岸は急深かつ緩やかな形状のため、津波が一箇所に集中して高くなることはなく、また、海岸部が広く高いため、自然堤防の役割を果たしています。
- 2 安政東海地震の記録
1854年の安政東海地震における原付近の津波高は3m以下であり、「間門村より元吉原までは格別のこともなし」との史実が残っています。
- 3 防潮堤の整備
千本地区から富士市までの防潮堤の高さは、9m〜17mであり、地震発生後、堤防が沈むという最悪の条件を仮定した場合にも浸水しない想定結果でした。

Q 海の近くに住んでいるので津波が心配です

A 津波高と浸水深は異なります

高い津波が想定される地域では、とても不安になると思います。

海岸に到達した津波は、海岸付近の防潮堤や丘などを乗り越えるまでは陸上に侵入しません。また、陸上が上がっても地形の凹凸や建物などに阻まれ勢いがなくなります。

このことから、海岸の津波高と陸上での浸水深は全く別のものとなります。

今回の想定は、地震・津波に備えるために役立たせる予測です。

そのため、ご自宅、地域の地理的状况や付近の浸水深等を確認し、自然が相手の災害から自分の命を守るために、できることからひとつずつ積み重ね、いざという時には迅速に適切な高い場所に避難することが最も大切です。